

広告

企画・制作 LEXUS NEW TAKUMI PROJECT 実行委員会

世代を越えて愛されるステンドグラスへ

沢田 いくみ 宮城／ステンドグラス作家



スーパーバイザー
小山 薫堂氏

1964年6月23日 熊本県天草市生まれ。日本大学芸術学部放送学科に通う。伝説の深夜番組「カノッサの屈辱」でその名を世間に広め、「進め!電波少年」や「料理の鉄人」など、数多くのヒット番組の企画・構成に携わる。「くまモン」の生みの親でもある。



1月17日、プレゼンテーションにて

「伝統」を守りながら「新しい」感覚やテクニックノロジーを吹き込む。「地域」の特性を深めながら、その魅力を「世界」へ広く発信する。LEXUSが掲げる「二律双生」を、地方創生×モノづくりの視点で実現するプロジェクト。宮城県選出の匠、ステンドグラス作家・沢田いくみさんのモノづくりへかける思いと完成した作品を紹介する。

本プロジェクトは2016年、放送作家として「料理の鉄人」などの多くのヒット番組を手がけ、またくまモンの生みの親でもある小山薫堂氏をプロジェクターのスーパーバイザーに迎え、隈研吾氏(建築家/東京大学教授)、生駒芳子氏(ファッション・ジャーナリスト/アート・プロデューサー)、下川一哉氏(意匠研究)らをサポートメンバーに発足。昨年度は、52名の匠によるプロダクトが誕生。若き匠の挑戦が刻まれたプロダクトは、ふるさと納税の返礼品への採用や、ロックフェラー家の主催のチャリティイベントへ出品されるなど注目を集め、匠自身もTVやwebメディアへの掲載など目覚ましい活躍を見せている。

2年目となった今年は、全国47都道府県から計51名の若き匠が選出。昨年夏、レクサスギヤラリー高輪で行われたキックオフ・セッションを皮切りに、サポートメンバーが実際に工房を訪ね、途中経過のプロダクトをうけて行うエリア・コンサルティングを経て、匠は自身のアイデアを磨き、プロダクトの試作に取り組んだ。



商談会の様子



作品をプレゼンする沢田さん

「匠」のモノづくりを応援

「LEXUS NEW TAKUMI PROJECT」(主催:レクサス)は、日本各地で地域の独自性や伝統技術を生かし、新しいモノづくりを挑む「匠」を応援する。

つながりを大切に、次のステージへ

ステンドグラスは一枚の板ガラスからデザインを構成するパーツを切り出し、組み合わせてつくられる。しかし今回のプロジェクトで沢田さんが素材に選んだのは「雄勝玄昌石(おがつけんしようせき)」。制作で石を使うのは初めての試みだ。

宮城県石巻市の伝統工芸品・雄勝硯にも使用されている玄昌石は、艶やかな黒が特徴的で和とも調和しやすい。年齢や性別を越えて愛されるものづくりがしたいと考えていた沢田さんに、下川氏は「台座に石を使うだけでは普通の発想と変わらない。石を板状にしたら何かが見えてくるのではないか」とアドバイス。板状と言え、沢田さんが普段向き合っているガラスと同じだ。「台座だけでなくシェード



下川氏からのアドバイスがヒントに

日常に溶け込む飽きないデザイン

沢田さんのアトリエは、さまざまなクラフツマンやアーティストの作品が揃うショップ「the day's play concept store」の中にある。河原町(仙台市)の大通り沿いにあるリノベーションされた古民家風の店舗には、沢田さんがつくるステンドグラスの作品が数多く並んでいる。

もともとものづくりが好きだったという沢田さん。横浜のステンドグラス教室で制作技術を学び、2012年に仙台にやってきた。東日本大震災からの復興に向けて歩み続ける東北と、新しいことを始めようとする自分の姿が重なり、やがて「ここだ」と一念発



店内には作品が並ぶ



完成プロダクト テーブルランプ「玄翔【GENSHO】」

たスタイリッシュなデザインを目指した。石を加工するために必要な知識・技術を学び、加工可能な石の形状から全体のデザインを模索する。そして完成したのが、白とグレーのオートガラスと黒い雄勝石がストライプ模様を描くモダンなテーブルランプ「玄翔【GENSHO】」だ。年齢や性別に関係なく洋室にも和室

にも溶け込めるようデザインされたこのランプは、沢田さんが目指すものづくりの一つの集大成でもある。

「下川さんをはじめ多くの方からアドバイスをいただき、自分では気付けないことにも気付くことができました。新しいことにチャレンジできたことで、ステップアップのきっかけになったと感じています」

と語る沢田さん。企画の終わりは新しい自分のスタートでもある。「同じ目標でものづくりに携わる人たちにも出会うことができました。そのつながりを大切にしながらさらに上のステージを目指していきたいと思っています」。仙台から世界に向けて飛翔しようと努力する、沢田さんの挑戦が始まっている。

「プロジェクトの作品のコンセプトも同じです。どんな空間にも合わせやすく、飽きのこないデザインを心がけています」。

た。世代を越えて愛されるものづくりを通し、良いものを長く使うことの大切さを伝えていきたいと思っています」。



ガラスカットでは熟練の技が光る



沢田 いくみ
宮城／ステンドグラス作家

1984年生まれ。2003年よりアメリカにてスタジオアートを学ぶ。2011年、衝動的なステンドグラスとの出会いから製作を開始。宮城県仙台市を拠点とし、「主張的なデザインではなく、日常生活に溶け込むステンドグラス」をコンセプトに、全国からの注文製作・オリジナル作品の製作を手掛けている。2014年より、東北の老舗百貨店「藤崎」において、企画展を年2回のペースで開催。

LEXUS
NEW
TAKUMI
PROJECT